

蕾切りカーネーションの低温貯蔵と強制開花法							
<p>【要約】 <u>カーネーション</u>を蕾切りして、収穫直後または0℃で低温貯蔵後につぼみクリザールRa水溶液に浸漬して強制開花させることにより出荷時期の調節が可能になる。改植時に蕾切りを行うことにより切花のロスが少なくなり取量が増加する。</p>							
園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	加工利用	対 象	花き類	分 類	普及

【背景・ねらい】

カーネーションは定植時期、摘心方法、温度管理等によって出荷時期の調節を行っているが、気象条件によって開花期が前進する場合には需要期前の上荷となり経営的なメリットが少なくなる。また5月以降の改植時には、開花間近の蕾までも廃棄されているが、これらの蕾を上荷することができれば確実に取量が増加し経営的な効果が大きい。そこで蕾切りカーネーションの採花ステージを明らかにするとともに、蕾切り直後と蕾切りしたカーネーションを長期低温貯蔵した後の強制開花方法を確立する。

【成果の内容・特徴】

- ①蕾切りしたカーネーションと収穫後に箱詰め0℃、40～60日間低温貯蔵した切花は、温室内でつぼみクリザールRa水溶液（40g/l）に2～13日間浸漬することによって強制的に開花させることができる（図1、表1、表2）。
- ②蕾のステージがⅠ～Ⅲと小さい場合は、強制開花処理の期間が長く、管理が煩雑で開花も不揃いとなりやすいので、採花ステージはⅣ～Ⅵとし、処理日数は7日以内とする（図1、表1、表2）。
- ③4月に蕾切りして直ちに強制開花処理を行う場合の採花ステージは、「せとのはつしも」「タンガ」ではⅤ～Ⅵがよい。40～60日間低温貯蔵した後に強制開花処理する場合の採花ステージは、「せとのはつしも」ではⅢ～Ⅵ、「タンガ」ではⅤの大きさが実用的である（図1、表1、表2）。

【成果の活用面・留意点】

- ①カーネーション産地における出荷調節技術として活用する。
- ②蕾切りで貯蔵する場合は、収穫前に殺菌剤で十分に防除を行い貯蔵中の腐敗等の発生を予防する。
- ③強制開花処理に当たっては、蕾のステージを揃えて処理し一斉に開花するように留意する。

[具体的データ]

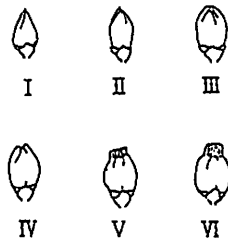


図1 採花ステージ (蕾の外観)

表1 採花ステージ (蕾の大きさ) (平成4年)

採花 ステージ	せとのはつしも			タ ン ガ			計測部位
	a	b	c	a	b	c	
I	12	27~30	-	17~18	23~24	-	
II	13~14	29~31	-	20	24~26	-	
III	15	30~31	-	21~22	27~29	-	
IV	15	30~32	1~2	23~26	30~31	1~2	
V	16~17	31	8~9	24~26	33~35	8~10	
VI	16~17	30~32	15~18	25~27	34~35	16~18	

表2 蕾貯蔵と開花 (平成4年)

品種	採花 ステージ	貯蔵期間 (0日間)				貯蔵期間 (40日間)				貯蔵期間 (60日間)			
		開花 処理	開花 率	日持 ち	障害	開花 処理	開花 率	日持 ち	障害	開花 処理	開花 率	日持 ち	障害
せ と の は つ し も	I	14	0	-	-	11	100	9	無	13	80	8	無
	II	10	100	14	無	9	100	11	無	9	100	10	無
	III	10	100	13	無	7	100	11	無	7	100	11	無
	IV	8	100	12	無	6	100	8	無	5	100	11	無
	V	5	100	13	無	4	100	8	無	3	100	9	無
	VI	3	100	15	無	3	100	9	無	2	100	9	無
タ ン ガ	I	14	0	-	-	14	0	-	-	14	0	-	-
	II	14	0	-	-	14	0	-	-	14	0	-	-
	III	10	10	-	無	8	90	11	ガクワ	10	100	10	ガクワ
	IV	8	100	13	無	6	100	11	ガクワ	4	100	14	無
	V	6	100	14	無	4	100	11	無	4	100	9	無
	VI	3	100	16	無	3	100	7	疵	2	60	8	疵

- 注) ① 蕾収穫日 : せとのはつしも (4月17日)、タンガ (4月20日)  
 ② 0日間 : 蕾収穫後直ちに開花処理を行った。  
 ③ 貯蔵方法 : エチレン吸着剤処理フィルムで組み段ボール箱に詰め、0℃で貯蔵。  
 ④ 開花処理 : 強制開花剤 (つばみクリザールRa水溶液 (40g/l)) に浸漬処理。  
 (14日目で打ち切り)  
 ⑤ 日持ち : 強制開花処理終了から観賞性がなくなるまでの日数。  
 ⑥ 障害 : 低温貯蔵中または開花処理中に発生した障害。

[その他]

研究課題名 : 採花時期と予冷処理方法

予算区分 : 県特

研究期間 : 平成4年度 (平成3~4年)

研究担当者 : 坂井康弘、小林泰生、谷川孝弘

発表論文等 : 平成3~4年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書